



第42回

探訪

☆今月の道場☆

全日本空手道連盟和道会

名取支部

(宮城県)

一つの勝ちも人に支えられている！

和道会名取支部は、2013(平成25)年に設立された比較的新しい道場です。設立当初から、「武の道は和の道である」という和道の精神に則り、空手道を学ぶことから「何事にも屈しない強い精神力と体力を養うこと」を理念に掲げ指導しています。競技面でも会派の全国大会や全空連の全国大会などで活躍できるよう熱心な稽古が行われ、会派の大会では優勝者を輩出しています。本年9月1日には、名取市美田園に新しく本部道場を竣工、また若い指導員も加わり稽古環境が充実し、今後はまだ出場したことのない全少・全中出場を目標に道場一丸となって進んでいます。現支部長の佐々木千代隆先生と初代支部長の小畑征二郎先生、副支部長の佐々木英彦先生に指導歴・指導法、今後の展望などについてお聞きしました。

■名取で和道の空手を

名取支部は、初代支部長の小畑征二郎先生、現支部長の佐々木千代隆先生、副支部長の今井勇雄先生、同じく副支部長の佐々木英彦先生により設立されました。

現支部長の佐々木千代隆先生は、長く石巻市の和道会支部で稽古・指導してきましたが、2011年の東日本大震災で石巻市の自宅が被災し、その後、名取市に移住し自宅を構えました。そんな折に、小畑征二郎先生、今井勇雄先生、佐々木英彦先生と相談し、名取地区に和道会の道場がなかったことから、名取で和道の空手を広めようと、名取支部の立ち上げに

至ったといえます。

「私は、一般社会人になってから(19歳)、空手道を習い始めました。それまでは、身体が弱く、冬になるとかならず風邪を引いて、学校を休みがちで、丈夫な方ではありませんでした。しかし、社会人になってから、勤労者青少年センターというところで、高校の先生(大槻忠節先生)が空手を教えており、そこで初めて、武道の空手道を知り、心身を鍛えることができました。稽古を始めると、多くの友人、子ども達との出会いがあり、振り返れば48年間という長きにわたり、空手道を稽古・指導しています。

空手道に限らず、継続することは難しいのですが、仲間と、子ども達と一緒にやっているからこそ、厳しくとも、健康で楽しく続けられていると思うのです。また、子ども達には、礼儀を正しく、先生、親、先輩に対する礼節を重んじる、他人にやさしく、自分には厳しくをモットーに、子供たちに空手道の楽しさを教えています」(佐々木千代隆先生)。

初代支部長の小畑征二郎先生は「和道会空手の特徴は、単に力やスピードに頼るのではなく、流す、捌くなど、相手の攻撃を逆らわずにかわし、相手の力を利用して技を決めるなど、極めて合理的で無駄の無い技が多いことです。また、武の道は和の道であるを基本理念とする和道会空手を学びながら心身を鍛え、礼儀正しく、強くたくましく、思いやりのある人を目指して稽古に励んでいます」と語ります。



全日本空手道連盟和道会名取支部の皆さん。「道場を新設したので、稽古環境は整いました。設立以来、和道の大会では成績を残してきていますので、宮城県のみならず、全少・全中に出場できるように頑張りたい」(佐々木英彦先生)。

■一層のレベルアップ

「未来を担う子ども達には、空手道における一本をとる難しさと、相手の攻撃から一本を守る難しさ、これらを何度も反復練習を積むことで、負けても次こそはと挑戦する忍耐強い心、自ら目標を定め、それに向かって地道に努力する心、他者への礼儀と人を思いやる心、これらを育んでもらえるよう指導しています」(副支部長:佐々木英彦先生、宮城県空手道連盟副会長・医療法人イルソーレ理事長)。

また、日々の稽古では、基本とともに基礎体力、特に足腰強化を重視していると佐々木英彦先生。「試合では最後は体力、気力が物を言います。また、稽古では初級、中級、上級に分け、それぞれに指導員がついています。7月からは、日本空手協会や高体連の全国大会で活躍した星翔貴君(仙台南高校卒)が指導員として加わってくれましたので、競技面、特に組手では一層のレベルアップが期待できます」。

■本部道場竣工

本年9月1日には、新しい本部道場が竣工。「春からのコロナ禍において、目標とする大会もなく、道場の子ども達もかなり閉塞感が漂っていたので、

何とか子ども達にモチベーションをと、率直な気持ちで道場を建設しました。建設の計画はありましたが、具体化したのは、新型コロナウイルスの感染が拡大してからです。全国的に屋内競技は、感染拡大でやめてしまう子どもが続出していると聞いていたので、一つくらい希望をと思い、練習場所を一箇所にできればとは思っていました」(佐々木英彦先生)。

最後に、「道場の歴史は浅いですが、和道会所属の道場として和道の空手をさらに普及させ、宮城での空手の普及・発展を目指します」(佐々木千代隆先生)。「我が道場で、一緒に汗を流し、ともに心身を鍛え、コロナを乗り越えて“勝ち!”のコールを受けてみようではありませんか」(佐々木英彦先生)。

全日本空手道連盟和道会 名取支部

支部長/佐々木千代隆
創立年/2013年 流派・会派/和道流
道場生数/約30名(2020年9月現在)
稽古日・稽古場所/
火曜:相互台公民館
金曜・土曜:和道会名取本部道場
指導員/小畑征二郎(初代支部長)、佐々木千代隆(現支部長)、
今井勇雄(副支部長)、佐々木英彦(副支部長)、阿部敏彦、星翔貴

佐々木千代隆(ささきちよたか)

1953年12月5日、宮城県石巻市生まれ。空手は社会人になってから始める(19歳)。1973年、和道流空手道へ入門。石巻支部・大槻忠節先生へ師事。1979年～石巻和道会の支部指導員。1984年、石巻和道会南支部を設立、支部長として指導。2017年～和道会名取支部長、現在に至る。



(公財)全日本空手道連盟公認5段、全日本空手道連盟和道会6段、全空連公認地区組手審判員、全日本空手道連盟和道会全国組手・形1級審判員、宮城県空手道連盟理事、全日本空手道連盟和道会東北地区本部理事、全日本空手道連盟和道会宮城県本部常任理事



本年9月に竣工した和道会名取支部本部道場。コート2面分の広さに冷暖房完備。稽古環境は抜群となった。



「強豪道場と言われる道場の練習メニューを研究して、現状ではなぜ勝てないかを突き詰めています」(佐々木英彦先生)。



「中学生になり、空手道以外の部活を始めると道場をやめてしまう子どももいます。そこをどう引き留めていくかも課題です」(佐々木千代隆先生)。



指導陣の皆さん:右から阿部敏彦先生、小畑征二郎先生(初代支部長)、佐々木千代隆先生(現支部長)、佐々木英彦先生(副支部長)、星翔貴先生。